

木村病類似の組織所見を示した 異物性肉芽腫の1例

おお ふじ さとし しん どう まさ ひさ
大 藤 聡¹⁾ 進 藤 真 久²⁾
やま もと おさむ
山 元 修²⁾

キーワード：木村病類似，異物性肉芽腫

要 旨

76歳，男性。初診の約2年前より右前腕屈側に結節があることを自覚し，徐々に増大したので受診した。切除したところ，結節の内部に異物があり木村病類似の組織像であった。異物の元素分析をおこないタンゲステンと鉄を検出した。この異物を用いたパッチテストは陰性であった。以上より，木村病類似の組織所見を示す異物性肉芽腫と診断した。木村病類似の組織所見が見られたときは異物の存在を確認する必要があると考える。

はじめに

異物性肉芽腫は皮膚に入った異物が惹起する肉芽腫性反応である。様々な組織所見を示すが好酸球浸潤の強いリンパ濾胞構造が観察されることは少ない。われわれは右前腕に生じた木村病類似の組織所見を呈した異物肉芽腫の症例を経験したので報告する。

症 例

症例：76歳，男性

主訴：右前腕の結節

家族歴：特記事項はない

既往歴：糖尿病・前立腺肥大・心房細動

現病歴：初診のおよそ2年まえより右前腕に硬結を自覚していた。次第に大きくなり隆起してきたので受診した。切削機械を操作することはない。結節が生じた右前腕屈側に外傷の記憶はない。

初診時現症：右前腕屈側に直径1 cmの皮下結節が認められた。被覆皮膚との可動性は不良。下床の脂肪織との可動性は良好であった。皮膚の表面は灰色であった。結節に疼痛あるいは圧痛はなく皮膚温は周囲と同じであり拍動はなかった（図1）。

治療：局所麻酔下に結節を切除した。

病理組織学的所見：肉眼所見で摘出標本剖面中央に異物があった。病理組織検査のためのホルマリン固定パラフィン包埋ブロックレントゲン写真で標本の中央にレントゲン非透過性の物体が存在していることが確認された。異物は1×2 mmで石様

Satoshi OFUJI et al.

1) 島根県済生会江津総合病院皮膚科

2) 鳥取大学医学部感覚運動医学講座皮膚病態学分野

連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37